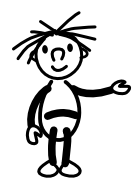


1) ガイドラインに従いモノの数を数えて、数字を切り貼り。  
2) 囲まれた集合を、「子ども」「大人」「人間」、「三角の板と紐」「円い板と紐」「テープ」のように全体集合と部分集合として言葉で表すこと。  
3) 切り貼した数字をなぞり書き。

a) 部分と全体の計数、幼児には部分と全体を同時に考えることが難しいとされるが、プロセスをたどれば可能となる。ペン図の象形性が一助となる。  
b) 部分集合と全体集合の認識は、計算や応用問題など数の操作の要件である。

?に すじじを いれよう。



1 2 3 4 5 ✂